

<日本初の女性医師 荻野吟子を映画化>

北海道にゆかりの深い日本初の上映医師、荻野吟子（1851～1913）を描く映画がこのほど完成、10月から各地の映画館でロードショーが開かれます。

吟子は今の埼玉県熊谷市に生まれました。若くして結婚したが、夫に性感染症をうつされて離婚。その上、産婦人科での治療はすべて男性医師で、羞恥心と屈辱感に苦しみ、その体験から、自ら医師になって女性患者を助けようと決意。しかし、世間は女性には「医術開業試験」の受験すら認められていない時代。その中で、吟子はさまざまな壁にぶつかりながらも医学を学び、苦難の道を経て34歳で「公許第一号」となるのです。東京で開院したのち、新天地を求めたキリスト教伝道師の夫と北海道に渡り、理想郷「インマヌエル村」を建設。明治30年にはせたな町に転居して女医として診療所を開くのです。

映画は、現代ぷろだくしょん（東京、代表山田火砂子監督）が製作。男尊女卑の時代に生き抜いた吟子の不屈の精神や深い愛情を感じてもらおうと企画されたもので、吟子役は若村麻由美さん、伴侶でキリスト教伝道師の志方善役は山本耕史さん。地元熊谷市の荻野吟子記念館は「郷土の偉人に光を当ててもらいたい。ロケにはできるだけ協力したい」と歓迎。日本女医会（東京）の前田佳子会長は「吟子の存在がクローズアップされれば、長い苦難の歴史があったことをふり返り、若い医師や医療を目指す人たちにチャレンジを与えるきっかけとなる。映画化はとても意義深い」と話しています。

今年4月の熊谷市俵瀬でのロケでは、地元の子供達もエキストラとして出演し、郷土の偉人への理解を深める機会となりました。撮影は、1891年の濃尾地震で被災した孤児たちを志方が引き取って、吟子が開業した東京の医院まで連れ帰る途中のシーンでしたが、孤児役の20人のうち15人は熊谷市立奏小学校の1～6年生の女兒が演じ、山本耕史さんに先導されて破れた着物と草履で畑道を歩く様子を熱演しました。撮影が終わったこどもたちは「昔の人を演じるために髪を崩し、古い衣装を選んだ。これまでに一番緊張したけど楽しかった。将来は看護師になって吟子さんのように努力したい」「被災した孤児たちの過酷な環境に驚いた。自分だったら生きていけないと思った。映画が完成したら、家族と一緒に見に行きたい」とそれぞれの感想を語っていました。

この映画は製作協力券（前売券）1枚1200円でどの会場でも鑑賞できます。

ケイズシネマ・新宿 10月26日（土）より1日3回上映

横浜シネマン 11月9日（土）より

問い合わせは、現代ぷろだくしょん（<http://www.gendaipro.jp>）へどうぞ。

なお、この映画には、2年前にHCJBの番組で「対馬丸撃沈事件」の語り部となって放送された松木路子さんが主人公の母親役で出演しておられます。

（お願い）今月から返信用切手は84円切手2枚を同封してください。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
10月05日	サボテン日記（3） 小畑いよ子	10月06日	聖書の旅路：聖書遊覧バス 旧約聖書 箴言
10月12日	初の女性医師・荻野吟子を映画化 松木路子	10月13日	リスナーからの「お便り交換の時間」
10月19日	日本に魅せられた英語教師 グレン先生	10月20日	聖書遊覧バス 旧約聖書 箴言
10月26日	「我ここに立つ」宗教改革記念日特番	10月27日	聖書遊覧バス 旧約聖書 箴言

放送後の番組は、ホームページ（<http://japanese.reachbeyond.jp>）のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15410kHz （再放送）午後8時～8時30分 15565kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）

